

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401195		
法人名	医療法人七久会		
事業所名	グループホームおこんご (第一ユニット)		
所在地	諫早市小長井町小川原浦656番地		
自己評価作成日	令和3年 12月 30日	評価結果市町村受理日	令和4年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和4年 3月 8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

窓から有明海、その先に雲仙を眺める場所にあり、病院と同じ建物の中にあるユニットなので、救急の対応にご家族様も安心していただいております。また、病院受診時に訪ねて来られる方もありコミュニケーションの場となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体医療法人の敷地内にあり、日々の体調管理や夜勤帯の看護師による3回の定期巡回の他、主治医や代理診療医による夜間緊急対応等、本人・家族や職員にとって、万全の体制は最大の特長である。職員は、管理者を中心として、困難時にお互いがフォローできる信頼関係を築きチームで支援に努めている。起床就寝時間は自由であり、利用者は習慣である朝日を拝んだり、日中は茶碗拭きやゴミ袋を作る等、得意な手伝いを行っており、職員の感謝の言葉に、更なる自信の笑顔に繋がっている。排泄支援では、介護度5であってもオムツを使用せず、日中は二人介助でトイレでの支援に努める等尊厳への配慮がある。入浴用品は桶に至るまで個別に揃え、排泄用品持参や利用料金の支払い時、家族に利用者の写真や動画を示し日頃の様子を伝えている。不安な家族の気持ちに共感し寄添う対応は評価できる。管理者、職員は、認知症を理解し、利用者がその一瞬一瞬を皆で楽しく過ごせるよう、理念「笑顔の追及」の実践に努める事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安らかな笑顔の追求」に地域密着型サービスの意義を踏まえたサブタイトルを付け、「この町のつながりを持ちながら」この理念を意識しながら、ご利用者と関わるよう職員間で意識付けしている。	理念「安らかな笑顔の追及」は、事業所開設以来20年、職員間で引き継がれている。職員は、利用者の認知度が進まないよう日課や行事の際にさまざまなアイデアを考案し、利用者には、そのひと時でも笑顔で楽しんで貰えるよう支援に努めている。ただし、理念実践を振り返る機会がない。	理念は、職員が支援について困難に陥ったり、判断に迷う時に、立ち戻るための道標として捉え、実践状況を職員で振り返ることで、理念浸透を図り、次代に繋げることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接のグループホームの交流や併設の病院を受診された方の面会。また、入院患者様との定期的な交流会も実施している。	母体医療法人は、以前から地域医療に携わり、地域の信頼に応え、多くの介護施設を有している。法人医院の入院患者との交流や学童から敬老を祝うカードが届いている。小・中学生や高校生の福祉体験受入や地域文化展への出品は、新型コロナ収束次第に再開を予定している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在会議を行っておらず、運営推進会議報告書(案)を提示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議(案)で返信された意見は、全スタッフに報告して、サービスの向上に努めている。	新型コロナ感染予防の為、2ヶ月毎の書面会議を行っている。入居状況や活動報告の他、身体拘束委員会における事例検討結果を公表している。議事録(案)のテーマ「面会について」には、構成委員から多くの返信があり、事業所で検討すると共に、市の担当課に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新手続きや推進会議報告書(案)の報告、毎月待機者の報告等を行っている。	行政からの情報は、法人事務局を通じて得ており、管理者が感染症対策の研修や勉強会に参加の際は、文書を回覧し職員共有している。介護保険更新手続きや提出物等、管理者が窓口で行う他、運営上の不明点を問合わせたり、待機状況を報告する等、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に危険がある場合のみ原則として、基本的に拘束しないよう取り組んでいる。	毎月、法人の身体拘束委員会に、管理者が出席しており、事例検討を行い、2ヶ月毎の運営推進会議で報告している。職員は、利用者の耳元で繰返し話したり、表情、仕草に注視し早めの声掛けを行う等、拘束のない支援に努めている。管理者は、職員の不適切な言動には注意を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、言葉による虐待をしないように注意し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用されている利用者の方がおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、契約書の説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や施設サービス計画書の作成時、利用者様やご家族に意見や意向を尋ねている。また、面会時や日常の中で気軽に声を掛けてもらっている。ご意見箱も設置している。	契約時に苦情相談窓口を説明しており、意見箱を設置している。家族は直接意見や要望を伝えている。新型コロナ禍で面会を規制した時は玄関のガラス越しでの面会や本人の笑顔の写真を送るなど支援している他、感染者数が減少し面会規制緩和時には10分の時間設定にて居室での面会を再開しており、家族に喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度カンファレンスを開催しており、必要性のある意見に対しては案を作成して、代表者に活動を繋げている。	新型コロナ禍のため、職員が集まる機会を削減しており、職員会議は行っていない。そのため、グループLINEを活用し、情報を共有しており、更に管理者も利用者支援のため現場に入るため、職員は意見や要望を伝えやすい環境となっている。職員のアイデアや意見は全職員で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行事の際、休日出勤に対しては超勤書類を提出し給与にプラスして貰っている。希望休、勤務変更届け出も制限なく変更できるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は閲覧できるように提示し、カンファレンス等でも研修の声かけを行い、できるだけ参加するよう呼び掛けている。研修は勤務扱いにしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や院内の勉強会に参加し他施設のスタッフと交流を図り、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された段階で本人の声に直接耳を傾け、ゆっくりと話ができる時間を確保して、支援に繋げる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにおける状況を把握した上で、家族様が困っている事や不安、要望(具体的内容)も聞きながら、相談に乗れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等も確認し、何が必要かを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、本人の生活歴等を伺いながら生活の知恵など教えてもらうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、本人を支えて行く為の協力関係を築けることが多くなってきた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通所に来られている知り合いの方との面会や、入院患者様と同じ時間帯に入浴できるように配慮し、関係が途切れないように支援に努めている。	職員は利用者の馴染みの人や場を把握しており、デイサービスにて友人と会うのを楽しみにしている利用者や読書が好きな利用者などそれぞれに合わせて支援している。以前は家族や近所の人が訪れており、新型コロナ禍が収束次第、再開できるように考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間を持ち、孤立しないようにスタッフが間に入り会話の橋渡しや気持ちの代弁をしたり、関わり合いができるよう支援している。体操やゲーム等を取り入れ一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集に努め、本人様から意向をお聞きするのが難しい場合は、家族様にお伺いし思いを支援に繋げている。	職員は、日頃から利用者一人ひとりと会話する機会があり、思いを聞き取っており、就寝、起床の時間は本人の希望に合わせている。難聴の場合は、耳元で話しかけ、意思表示が困難な場合は、声掛けした反応をみて、本人の望む支援の糸口を探している。ただし、職員が把握した本人の思いや生活歴の記録を集約していない。	本人の思いや意向、これまでの生活歴等、聞き取った内容を集約し、職員間で共有する工夫が望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のアセスメントシートを作成し、本人様や家族様、第三者からの情報提供を書き込み把握に努めている。面会者の方から話を聞いたりしたことを共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実際の関わり合いと日常の記録記入、特変の有無、日常のスタッフの情報交換の中から現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め全職員での意見交換、カンファレンスを行い介護計画を作成している。	入居前のサマリーをもとに、暫定プランを作成し、入居後1、2ヶ月様子を見て、長期1年、短期6ヶ月の本介護計画へ移行し、本人・家族の了承を得て実践している。ケアマネジャー助言の下、担当職員が介護計画作成に携わっている。ただし、目標項目が、ケアの目的が解る内容になっておらず、実践状況がわかりにくい。	介護計画の目標設定は、わかりやすい文で記し、サービス内容に対して、実践結果を、職員で共有できる仕組みづくりに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や本人の言葉などの記録が以前より記録できているが、言動や行動が無い方の様子が伝わる記録が少ない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して柔軟に対応できるようにしているが、サービスの多機能化について実践できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の高齢化に伴い、自治会行事等に参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院のかかりつけ医の方が殆どで、ドア一枚向こうの病院へ受診、訪問診療ができています。	併設医療法人主治医の週2回の往診と、看護師は体調管理の他、夜勤帯に3回の定期巡回を行っている。他科受診は、基本的には家族支援であるが、近隣歯科の受診は職員が同行し、受診結果は家族と職員で共有している。夜間緊急時は、主治医、代理診療医が対応し、状況によって協力医療機関に搬送する等、連携体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接なので看護師に報告し、受診時即対応してもらい支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院なので、Drにより利用者様、ご家族様に説明を行い、その後の情報も交換できている。他の医療機関の時は連携室との情報交換ができ、お見舞いに行き情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関併設の為、Drと事業所の代表者、ご家族との間で話し合いを持ち意向をお聞きしている。看取りの支援も行ったが、看取りなどは無い。	以前は、家族の意向に沿って看取りの事例があったが、近年は看取り支援を行っていない。利用者の体調変化時、主治医と家族が話し合い、環境が整った法人他施設や医療機関へ移動の為、退所となっている。事業所は、重度化や終末期指針を作成途中であり、方針を明確にし本人・家族が安心して終末期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関が併設の為急変や事故発生時には報告し指示を受けている。全ての職員が実践力を身に付けているとは言い難い。研修に参加したり、急変時等はカンファレンスで報告している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	事業所だけでなく、併設の医療法人全体、隣接のグループホームと一緒に取り組んでいる。	事業所は、法人併設施設合同での消防署立会い火災訓練を行っており、今年度2回目を年度末に夜間想定で実施予定である。自然災害訓練を1回行っている。消防団による施設内見学その他、併設施設職員や近隣食堂にも有事の際の協力を仰いでいる。飲料水や非常食等、備蓄は事業所にて整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり生きてきた人生には歴史があり、いろいろな経験や思いがある。それを否定せず受容し共に寄り添う声かけや対応を心掛けている。	職員は、利用者は人生の輩として支援しており、基本的に利用者を苗字にさん付けで呼んでいる。入浴時の脱衣所では羞恥心に配慮したタオルを掛けたり、夜間は居室のドアを閉めている。家族から便りに掲載する写真の同意書を得る他、職員は守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に合わせて声かけを行い、意思疎通が困難な方には表情を読み取ったり、ジェスチャーや文字を利用し、一人ひとりの利用者様が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々一人ひとりのペースで過ごして頂いている。精神的に不安定な時があり、行動に障害を感じられる時は見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備をする際は、本人様に衣類を選んで頂いたり、自己決定しにくい方には、行事などはおしゃれができるように支援している。また、本人様馴染みの美容室でカットができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の意思があり、一緒に食事の準備や後片付けをしている。(一部の利用者に限られている) 饅頭や桜餅を一緒に作ったりしている。	併設する病院の厨房で調理しており、献立は一週間ごとに管理栄養士が作成している。契約時に嗜好調査を行っている。利用者が食べやすいようキザミ食、ソフト食も提供している。利用者によっては、職員と一緒におはぎや桜餅を作ったり、食事後の茶碗拭きを手伝う人もいる。誕生会はケーキで祝い、利用者にとって楽しい時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、食事形態や誤嚥がないように配慮し、厨房スタッフとも連携している。毎食の食事摂取量も記録し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけを行い、その方に応じた見守りや介助を行っている。義歯洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常は定時でトイレ誘導を行っているが、尿便意のある一部の方はその都度トイレ介助を行い、トイレでの排泄を支援している。	職員は、日中、全利用者をトイレで排泄できるよう支援している。排泄チェック表を付けながら定期的に誘導しており、布パンツで過ごす利用者もいる。夜間は複数人がポータブルトイレを使用している。パッドのサイズは、本人の状況を見ながら職員間で検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにバナナや蒸かし芋を提供したり、飲水量を多めに取って頂く。また、野菜ジュースやヨーグルト飲料を取ってもらうなど工夫をしている。飲水量が少ない方にはお茶ゼリーを摂取して貰っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所だけでなく、医療機関全体での入浴支援を行っている為、基本的な入浴日の時間が決まっている。必要に応じて事業所内の浴槽で入浴できるよう支援している。	事業所では、入浴の場所が併設するデイサービスの浴室である。そのため、週に2回の入浴日が決まっており、女性、男性と別日に入浴を支援している。入浴日以外の日、清拭や衣類の交換を行い、清潔保持に努めている。季節にはゆず湯を提供し、利用者には喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日常の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状、お薬ノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器、お盆拭きや洗濯物たたみなどをお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って戸外へ出かけられるように支援している。	以前は季節ごとにコスモスや桜の見物に出掛けており、雪が降った時は職員と利用者が雪だるまを作っている。新型コロナ禍で外出が難しい現在は、屋上で外気浴したり、早朝に朝日を見て拝むなど、利用者それぞれの希望に沿って支援している。自動販売機にジュースを買いに戸外に出る利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度所持され、自販機からジュース等を買われたり、散髪代を支払われたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は事務所から本人自ら電話される。一部の利用者様へ支援が限られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルの色を統一し、食堂兼居間には季節に応じた工夫をしている。季節感を味わえるように飾り付け等を行っている。	2階の居住スペースから眺める、朝日が昇る一面海の風景は、開放的である。壁は季節ごとのタペストリーや折紙を掲示しており、季節感を出している。利用者は車椅子を自走したり、職員と談笑したり、ソファで図書館貸出の本を静かに読む等、自由に過ごしている。職員による毎朝の清掃や感染対策の徹底で、清潔な生活環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新しい建物になり共同空間に余裕ができ自由に過ごせている。ソファも置きくつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具類や食器類を持参してもらっている。写真も持ち込まれている。	本人が環境の変化に不便を感じることがないように愛用品の持込みができる。家族写真を掲示し、毎月季節の造花を飾る家族がいる。排泄用品は箱に収納し、見えない工夫は尊厳への配慮がある。冬場は濡れタオルや洗面ボウルに水を張り乾燥を防いでいる。職員による毎朝の掃除機、モップ、手摺消毒等の清掃で清潔を保持している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下等には手すりを付けたたり工夫している。照明の工夫。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270401195		
法人名	医療法人七久会		
事業所名	グループホームおこんご (第二ユニット)		
所在地	諫早市小長井町小川原浦656番地		
自己評価作成日	令和3年12月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和4年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

窓から有明海、その先に雲仙を眺める場所にあり、病院と同じ建物の中にあるユニットなので、救急の対応にご家族様も安心していただいております。また、病院受診時に訪ねて来られる方もありコミュニケーションの場となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安らかな笑顔の追求」に地域密着型サービスの意義を踏まえたサブタイトルを付け、「この町のつながりを持ちながら」この理念を意識しながら、ご利用者と関わるよう職員間で意識付けしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接のグループホームの交流や併設の病院を受診された方の面会。また、入院患者様との定期的な交流会も実施している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在会議を行っておらず、運営推進会議報告書(案)を提示している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議(案)で返信された意見は、全スタッフに報告して、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新手続きや運営推進会議報告書(案)の報告、毎月待機者の報告等行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命に危険がある場合のみ原則として、基本的に拘束しないよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、言葉による虐待をしないように注意し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、利用されている利用者の方がおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書、契約書の説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設サービス計画書の作成時、利用者様やご家族様に意見や意向を尋ねている。面会背現がある為、電話で連絡させてもらっている。ご意見箱も設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度カンファレンスを開催しており、必要性のある意見に対しては、代表者に活動を繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望公休、勤務変更届け出も制限なく変更できるように配慮している。有休も消化できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内は閲覧できるように提示し、カンファレンス等でも研修の声かけを行い、できるだけ参加するよう呼び掛けている。研修は勤務扱いにしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や院内の勉強会に参加し、他施設のスタッフと交流を図りサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された段階で本人の声に直接耳を傾け、ゆっくりと話ができる時間を確保して、支援に繋げる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにおける状況を把握した上で、家族様が困っていることや不安、要望(具体的内容)も聞きながら、相談に乗れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等も確認し何が必要かを見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、本人の生活歴等を伺いながら生活の知恵など教えてもらうこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の様子や職員の思いをきめ細かく伝えることで、本人を支えて行くための協力関係を築ける事が多くなってきた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通所に来られている馴染みの方との面会や、入院患者様と同じ時間帯に入浴できるように配慮し、関係が途切れないように支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで楽しく過ごす時間を持ち、孤立しないようにスタッフが間に入り会話の橋渡しや気持ちの代弁をしたり、関わり合いができるよう支援している。体操やゲーム等を取り入れ一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過フォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集に努め、本人様から意向をお聞きするのが難しい場合は、家族様にお伺いし思いを支援に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のアセスメントシートを作成し本人様や家族様、第三者からの情報提供を書き込み把握に努めている。面会者の方から話を聞いたりしたことを共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	実際の関わり合いと日常の記録記入、特変の有無、日常のスタッフの情報交換の中から現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め全職員での意見交換、カンファレンスを行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や本人の言葉等の記録が以前より記録できているが、言動や行動の無い方が伝わる記録が少ない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して柔軟に対応できるようにしているが、サービスの多機能化について実践できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の高齢化に伴い、自治会行事に参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院のかかりつけ医の方が殆どで、ドア一枚向こうの病院へ受診、訪問診療ができています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接なので看護師へ報告し、受診時即対応してもらい支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院なので、Drより利用者様、ご家族に説明を行い、その後の情報も交換できている。他の医療機関の時は連携室との情報交換でき、お見舞いに行き情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関併設の為、Drと事業所の代表者、ご家族との間で話し合いを持ち意向をお聞きしている。看取りの支援も行ったが、近年看取り等はない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療機関が併設の為、急変や事故発生時には報告し指示を受けている。全ての職員が実践力を身に付けているとは言い難い。研修に参加したり、急変時等はカンファレンスで報告している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	事業所だけでなく、併設の医療法人全体、隣接のグループホームと一緒に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり生きてきた人生、歴史があり色々な経験や思いがある。それを否定せず受容し共に寄り添う声かけや対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、意思疎通が困難な方には表情を読み取ったり、ジェスチャーや文字を活用し、一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々一人ひとりのペースで過ごして頂いている。精神的に不安定な時があり行動に障害を感じられる時は見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の準備をする際は、本人に衣類を選んで頂いたり、自己決定しにくい方には、行事等はおしゃれができるよう支援している。また、本人の馴染みの美容室でカットができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の意思があり、一緒に食事の準備や後片付けをしている。(I部のご利用者に限られている) 饅頭や桜餅を一緒に作ったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、食事形態、誤嚥がないように配慮し、厨房スタッフとも連携している。毎食の食事摂取量を記録して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声かけを行い、その方に応じた見守りや介助を行っている。義歯洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常は定時でトイレ誘導を行っているが、尿便意のある一部の方はその都度トイレ介助を行い、トイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにバナナや蒸かし芋を提供したり、飲料水を多めに取って頂く。また、野菜ジュースやヨーグルト飲料を摂ってもらう等工夫している。飲水量が少ない方にはお茶ゼリーを摂取してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事業所だけでなく、医療機関全体での入浴支援を行っている為、基本的な入浴日、時間が決まっている。必要に応じ、事業所内の浴槽で入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日常の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬状、お薬ノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後、お盆拭きや洗濯たたみ等をお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って戸外へ出かけられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度所持され、自販機からジュース等を買われたり、散髪代を支払われたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は、事務所から本人自ら話をされる。一部の利用者へ支援が限られる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂のテーブルの色を統一し、食堂兼居間には季節に応じた工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新しい建物になり共同空間に余裕ができ、自由に過ごせている。ソファを置きくつろいで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの寝具類や食器類を持参してもらっている。写真も持ち込まれている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレ、廊下には手すりを付けたり工夫している。照明の工夫。		